

# 「飢えと渇きに湧く泉！！」

～神の泉を保つ者へ！！～

詩篇 36 章 1-12

## ■ あなたの価値を分かっていますか？

ここに2枚の一万円札があるとします。1枚は新品、もう1枚はぐちゃぐちゃのお札です。さて、これらの価値に違いはあるのでしょうか？答えはどんな形であっても違いはなく、どちらも同じ一万円の価値です。このことを私たちはよく分かっています。ではこのことを自らの価値に置き換えたらどうでしょうか？多くの方が同じ価値だと考えることが出来ないのではないのでしょうか。どんな状況に置かれても唯一この世で価値が失われず変わらないものがあります。それは「人」です。人には尊厳があり権利があり義務があります。そのように神様が人を造られたからです。ですから人はどんなに傷つけられようが、踏みつけられようが、過去にどんなことがあろうが、決して無価値になることはなく、先ほどのお札の話のように人の価値に差が生じる事はありません。しかし往々にして私たちは、人と比較しあの人より価値がある価値がないといった誤まった考え方をしてしまいます。そんな私たちに神様は「あなたは価値がある。高価で尊い存在である。」と聖書の中で示してくださっています。あなたは自身の価値を分かっていますか？

## ■ 飢え渇きから私たちは何を得的のか

イエス様はヨハネの福音書の中で、ご自身をいのちのパンと言われ、またご自身が与える水を飲む人は決して渇くことがなく、その人の内で泉となりいのちへの水が湧き出すと言われました。ここに登場した人たちは飢え渇きを感じていましたが、私たちはこういった状況に遭うことは、悲しみであり痛みや苦しみであると感じています。そしてそれは時に孤独であり失望や絶望に至ると思っています。しかしそんなときクリスチャンは『これは神様の元に帰る合図なのだ』ということ思い出さなければいけません。イエス様が十字架にかかれるという生き様をもって伝えたかったことは、あなたの過去にどんなことがあってもあなたの価値は変わらないということであり、自分の価値を保ち、自身の心が満たされ、泉のごとく湧きあがらせるためです。泉はいのちです。神様が共におられれば水が湧き出て、あなたの過去は全て解決へと導かれるのです。

## ■ 自らを無価値にしてしまうものに注意

詩篇 36 編から、私たちが間違った道に歩みそうになる時、神様の知恵は私たちを善の道に導きます。しかしそれを阻止する力があります。それは「開き直り」です。罪は知らず知らずのうちに私たちの心を蝕んでいきます。あなたが傷ついたとき、私にはこんな過去があるから私は汚いんだ、もう手遅れなんだ。でもそれはしかたがないと開き直っている自分はいませんか？また、あなたは寝床で何を考えているのでしょうか。もし、不法を計ったり過去に生きて自分を否定していたり、過去が解決されないまま誰かを憎んでいたりするなら、自らを無価値にしてしまいます。そしてそんな時、あなたを無価値にする者と会話をしているならば、あなたはそれを悔い改めなければいけません。あなたと話すべきはあなたの価値を定めた神様です。あなたの価値はあなたが定めるものではなく、子々孫々まで神様があなたの価値を定めるのです。御言葉で『だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者(Ⅱコリ 5:17)』とあるように新しくされたあなたは無価値ではありません。寝床で語りかける悪い者に迷わされることがないようにしましょう。もし私たちが神様の元に帰るなら、外から来る人からの評価などに気がする必要がなく、内から神様に愛されているという自信が訪れます。いくらあなたが自らを否定しようと神様は、あなたの価値を保証してくださっているのです。この決して変わることはない愛で、あなたを回復させてくださっています。いのちの泉があなたの内にあることを信じましょう。

## ■ ① 御言葉を保つ

あなたの自論で生きないで御言葉で全てを解決して生きましょう。イエス様が荒野で悪魔の試みにあった時、イエス様は決して「わたしはこう思う」とは言われませんでした。そうではなく「聖書にこう書いてある」と言って悪魔の試みに勝ったのです。ですから私たちが聖書のことばで対抗しましょう。

そのためには御言葉を保つことが必要です。飲むことも食べることもイエス様によるのですから、私たちは WWJD (イエス様ならどうするか?) の歩みをしましょう。聖書には失敗したけれど神様の元に帰った人たちの生き様がたくさん描かれています。いつも自分の心を見張り、いのちの泉を湧きあがらせましょう。

## ■ 2 主に叫び求める！！

神様はあなたの声を聴きたいと願っておられます。それはきれいな祈りを並べた祈りではなく、子どものように素直で飢え渇いた祈りです。そのとき人を否定したり侮辱したりしては神様からの泉を絶やしてしまいます。あなたの価値と同じように相手にも価値があるのですから、その事をしっかりと心に留め、また、あなたの願いを既に聞き遂げてくださったことを信じて神様に心から叫びましょう。

## ■ 3 神様の泉以外の水溜を持ってはいけません

いのちの泉は湧くと聖書に書かれていますから、泉は溜める必要がありません。しかし私たちはそれを溜めておきたいと思ってしまう。出エジプト記 16 章にも主のことは従えない人の欲深さを見ることが出来ます。私たちにほられてはまだ欲しいと思う心や、なくなったときの事を思い不安になる心があります。では、あなたは何を信じているのでしょうか。何の保険を信仰に掛けているのでしょうか。これらは備えではなく不信仰です。神様はどんな境遇でも満ちたらせると言われているのですから、私たちは心配して生きるのではなく、神様の知恵を持って生きるべきです。神様がこうせよという時にしっかり備えましょう。聖書のことばをもって祈っても、もし神様に聴かないならそれは私たちが高ぶらせる知識でしかなく、解決は起こりません。神様の知恵はいつもあなたに語られています。そのことばを聴くことが出来れば、そこには解決があります。信仰を持って一歩を踏み出しましょう。

## ■ イースターに向けて

私たちの中で闘いが起こるとき、御言葉にたつて神様に祈りましょう。もし、私は無価値ですという思いになったなら、イエス様の十字架の陰に帰りましょう。イエス様は私たち一人ひとり、いえ、ただあなたを愛し、喜んで十字架の道に進まれました。私たちは過去にたくさんの失敗や傷を負ったかもしれませんが、人を憎み救せず生きてきたかもしれません。確かにそんなぐちゃぐちゃの自分は価値のないものに思えるかもしれませんが、しかし、そんな私たちにイエス様は「その汚れた服を脱ぎなさい。あなたが汚いのではない。あなたを清めるために着る服をあげよう。あなたには価値がある。」と言ってくださっています。ですからイエス様が共におられる1週間となるように祈りましょう。この受難週は私たちにとって特別な週です。本来 365 日そうでなければなりません。イエス様の受難は受難のまま終わらず、十字架と復活がありました。痛みと悲しみの中で神様は最大の愛を私たちに残され、大いなる奇蹟を生み出してくださったのです。そして復活という死の力を打ち破る力で私たちは全ての問題が解決され回復と再建がもたらされることを知りました。これにより私たちは希望を持つことができようになりました。ですからこれからも、そんなイエス様に期待して御言葉に耳を傾け、祈っていきましょう。『愛する神様。わたしはあなたの元に帰ります。あなたの命がけの愛に応えてあなたと共に歩みます。私の泉を今、湧きあがらせてください。枯れることのない尽きることのない変わるることのない泉を私から湧きあがらせてください。私は泉の管理者です。私から濁った水が出ることに私の言葉と態度を清めてください。私の言葉をあなたに捧げます。これはあなたのものです。あなたの香りを放つために、私の言葉を使ってください。苦しみがあるとき、あなたに祈らせてください。イエス様と共に生きていきます。イエス様の御名によって アーメン』

(要約者:平澤 瞳)

(2018年3月25日)